

翻訳にあたってのヒント

その 45

色にちなんだいろいろな英語

第 2 回

● Pink

第 1 回目の「red」に引き続く本第 2 回目では「Pink、ピンク」を取り上げる。

「ピンク色（桃色、淡紅色）」は赤系の色が明るく淡くなった色で、紫みの強い rose pink から黄みによった salmon pink までその範囲は幅広く、charm pink、corsage pink、debutante pink など女性的でかわいらしいものが多い。英語の pink は、本来石竹や撫子の花を指しているため、日本のいわゆる桃色とは出自が違う。さらに、欧米人は元気な赤ちゃんの肌の色をピンクから連想するそうである。そのためかどうか知らないが、日本語にあるようないやらしいイメージはなく、「健康」「元気」「活力」「新鮮」「希望」や in the pink の「完全な状態」「極致」といったプラスイメージがある一方で、「立腹している」「酔っ払っている」といったマイナスイメージもあるようだ。日本の慣用色名でピンク系にあたる色は、「紅梅」「サーモンピンク」「珊瑚」「鴝」「躑躅」「薔薇」「ピンク」「桃」等がある。以下に、pink が付く英語の語例をあげておく。

- in the pink 「とても元気（健康）で」「大変調子がよくて」「絶好調で」
- pink elephants 「幻覚」「酒の飲みすぎ、アルコール中毒」「クスリのやりすぎ、薬物中毒」（elephants と複数形になることに注意）
- pink slip 「解雇通知」（アメリカ口語で、解雇通知書の色がピンク色をしていたことに由来。”pinkslip ...”だと「～を解雇する」という意味の他動詞となる。）

これにて、第 45 回目終了。